

日本の小学生の英語学習における モチベーションと英語運用能力の変化

～アウトプットの機会に接した児童に焦点を当てて～

2021.7.4. JASTEC 全国大会

昭和女子大学 大学院 博士前期課程

大野 直子

本日の内容

1. 研究の背景
2. 先行研究とRESEARCH QUESTION
3. 研究方法
4. 結果
5. 考察
6. まとめと今後の課題

1) 研究の背景

- 対象：小学3～6年生166名
 - リーディング、リスニングのインプット学習中心の学校外英語プログラム
 - 夏期6日間の英語キャンプ参加者95名と非参加者75名
 - 学校外で英語を学ぶ小学生児童…33.7% (学研, 2015)
-
- 先に学習方略と英語運用能力の変化を調査したが、今回はこの学習方略に結び付くものとして、モチベーションの変化も調査したいと考えた。

2) 先行研究①

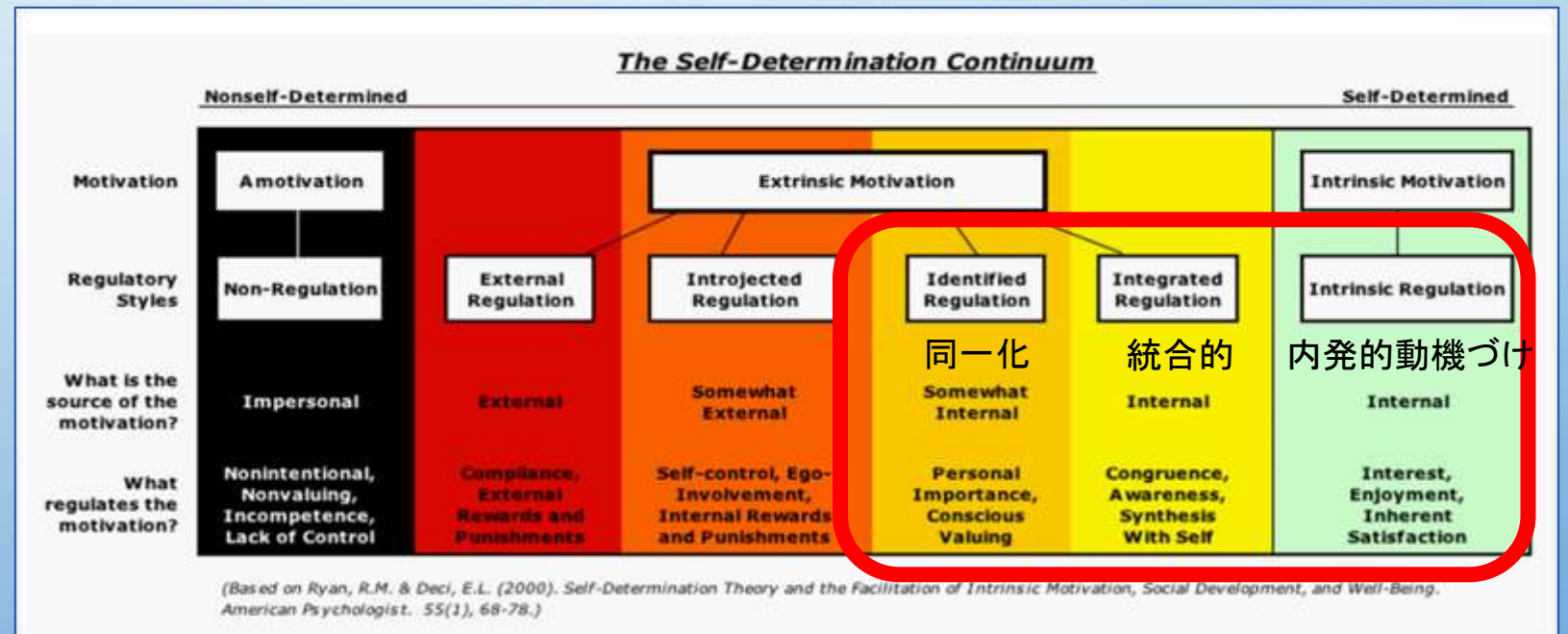
InputとOutput

- 言語習得には理解可能なアウトプットが必要。(Swain, 1985)
- アウトプットはその人が知っているものとのギャップへの気づきを与える。
(Swain, 1995)

2) 先行研究②

- モチベーションは「L2学習を開始するための主要な推進力」(Dörnyei,2015)
- 1990年代以降、モチベーション研究に教育心理学の考えが取り入れられる。

- Self-determined theory
(自己決定理論)
Deci & Ryan(1985)



RESEARCH QUESTIONS

日頃インプット中心の学校外英語プログラムで英語を学んでいる日本の小学生児童が、夏期6日間の集中的なアウトプットの機会に参加することで

①児童の英語学習に対するモチベーションはプラスに変化するのか？

②その結果、数か月後に測定するリスニング・リーディングの英語運用能力にもプラスの影響を与えるのか？

3) 研究方法: 参加者

	Total	Male	Female
Treatment Group (キャンプ参加者)	91	41	50
Control Group (キャンプ非参加者)	75	28	47
Total	166	69	97

- 小学3～6年生
- 日常的にCEFR A1レベル～A2レベルを学習。
- 海外生活3年以上、インターナショナルスクールに行っている等の児童は省く。

学校外英語プログラム

- プリント教材と音声機器による自習方式
- 週2日教室に通い、他の5日間は自宅学習
- 無学年方式
- 単語をまねて言うレベルから、英語の小説を原文で読むレベルまで28レベル5600枚から成るプリント教材
- 学習者のペースに合わせて学習。



夏期6日間の英語キャンプ

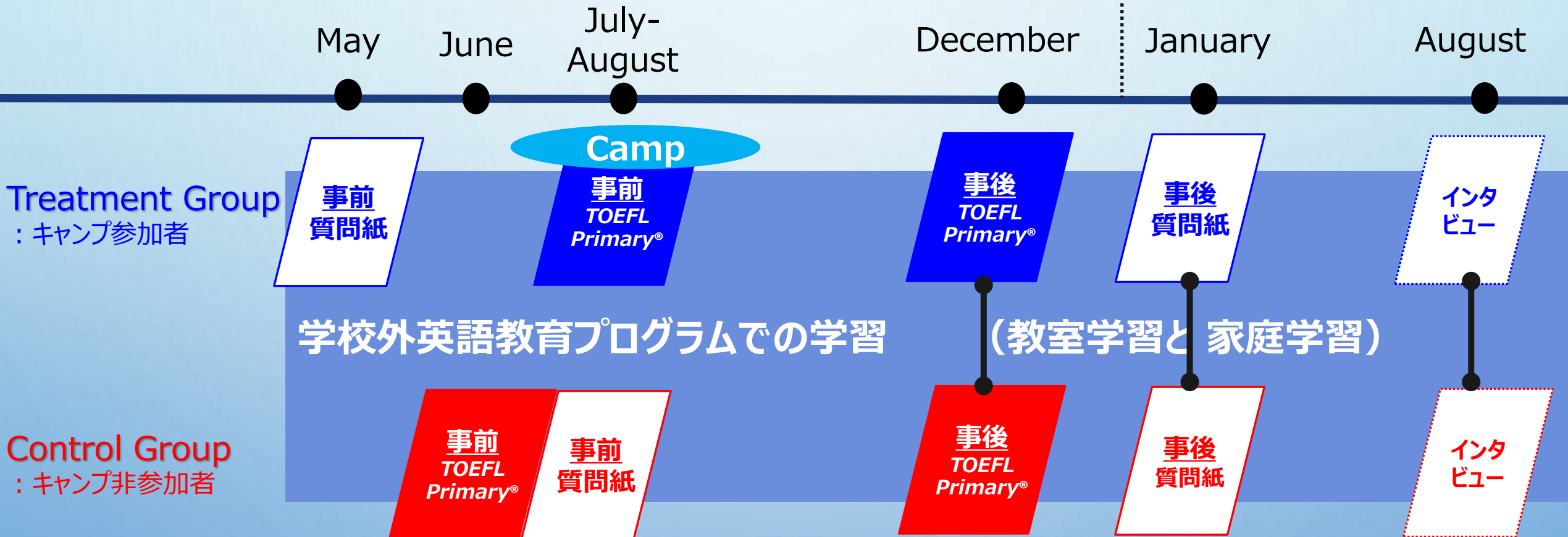
- 留学生を中心としたキャンプリーダーと過ごす
- 異文化理解やSDGs等世界の課題を英語で学ぶ
- Don't be afraid of making mistakesというスローガン



3) 研究方法: 実施時期

2019

2020



* キャンプ参加者のみ、キャンプ最終日にモチベーションの質問紙に回答、全部で3回の質問紙に答えている。¹⁰
キャンプ中の自分自身のコミュニケーション量についても毎日回答。

3)研究方法:手法

モチベーションの質問紙(事前・事後)

- McEown, Noels, & Saumure, (2014)による質問紙から抽出、児童用に表現をわかりやすくし、1項目に対して3問のサブカテゴリーを設けて作成

	あてはまらない	あまりあてはまらない	まあまああてはまる	だいたいあてはまる	あてはまる
① 英語を学習するのは楽しい Intrinsic(内発的)	1	2	3	4	5
② 自分にとって英語を学ぶことはとても大切なことだと思う Identified(統合的)	1	2	3	4	5
③ 色々な人たちと出会い、英語で話ができるようになりたい Integrative(同一化)	1	2	3	4	5

3) 研究方法: 手法

TOEFL Primary Step2テスト(事前・事後)

- 世界47か国以上で使われている 8～11歳向け英語運用能力テスト
- CEFR A1未満～B1を測定。
- ペーパーベースのリスニング・リーディングとコンピュータベースのスピーキングテスト
- 今回の研究ではリスニング・リーディングを実施。
- スコアは、それぞれ100～115で表示。CEFRにも紐づけられる。



You can make a beautiful card for your friend. When is a good time to make a card? A good time is when your friend wins a sports game or does well in school and wins an award. Show your friend that you are proud of him or her.

You need:

- Two large sheets of colored paper
- Scissors

GC & Tホームページ

https://gc-t.jp/about_test/primary/

児童を対象にしたインタビュー調査



	Total	Male	Female
Treatment Group (キャンプ参加者)	13	4	9
Control Group (キャンプ非参加者)	11	5	6
Total	24	9	15

- TOEFL Primary Step2 テストスコアが上昇した24名、1名30分程度、zoomまたは電話で実施
- 質問内容 1)事前テストと事後テストの間の英語学習で心掛けたこと。
2)なぜスコアが上がったと思うか
3)英語学習について思うこと

3) 研究方法: 分析手法

キャンプ参加者、非参加者の

- 【量的データ】

- 各項目の相関分析、 二元配置分散分析で事前・事後の

- ①英語運用能力 (TOEFL Primary Step2スコア リスニング・リーディング)

- ②モチベーション3項目 (Intrinsic(内発的), Integrated(統合的), Identified(同一化),)を
SPSSで分析

- 【質的データ】

- テキストマイニングソフト KH Coderを用いて分析

4) 結果

RQ① 児童のモチベーションはプラスに変化するのか？

キャンプ参加者・キャンプ非参加者の相関分析結果 事前一事後

キャンプ参加者		Intrinsic	Identified	Integrative
事前	リスニング	0.22*	0.21*	0.21
	リーディング	0.23*	0.29*	0.12
事後	リスニング	0.08	0.11	0.06
	リーディング	0.23	0.1	0.1
キャンプ非参加者		Intrinsic	Identified	Integrative
事前	リスニング	0.04	0.12	0.07
	リーディング	-0.01	-0.08	-0.11
事後	リスニング	0.06	0.25*	0.15
	リーディング	0.16	0.3*	0.13

* $p < .005$

▼表9-1 相関係数の一般的解釈	
相関係数	その解釈
±.70-1.0	強い相関あり
±.40-.70	中程度の相関あり
±.20-.40	弱い相関あり
±.00-.20	相関なし

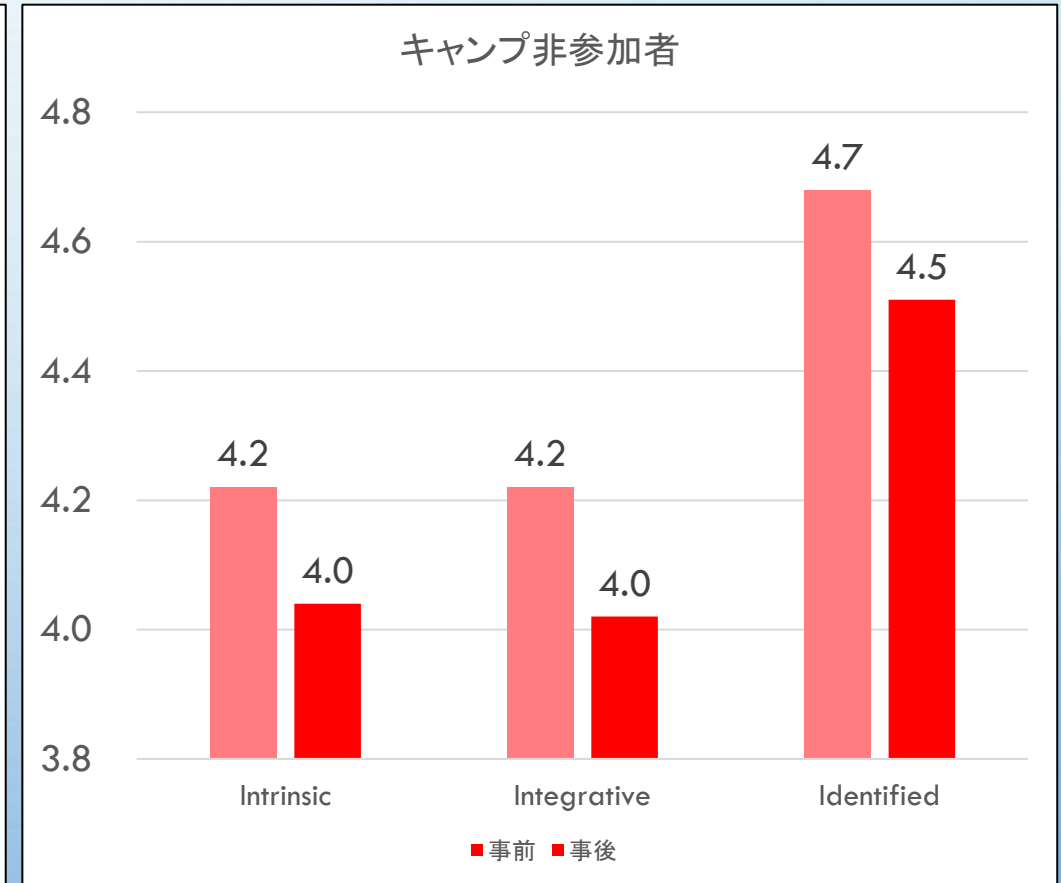
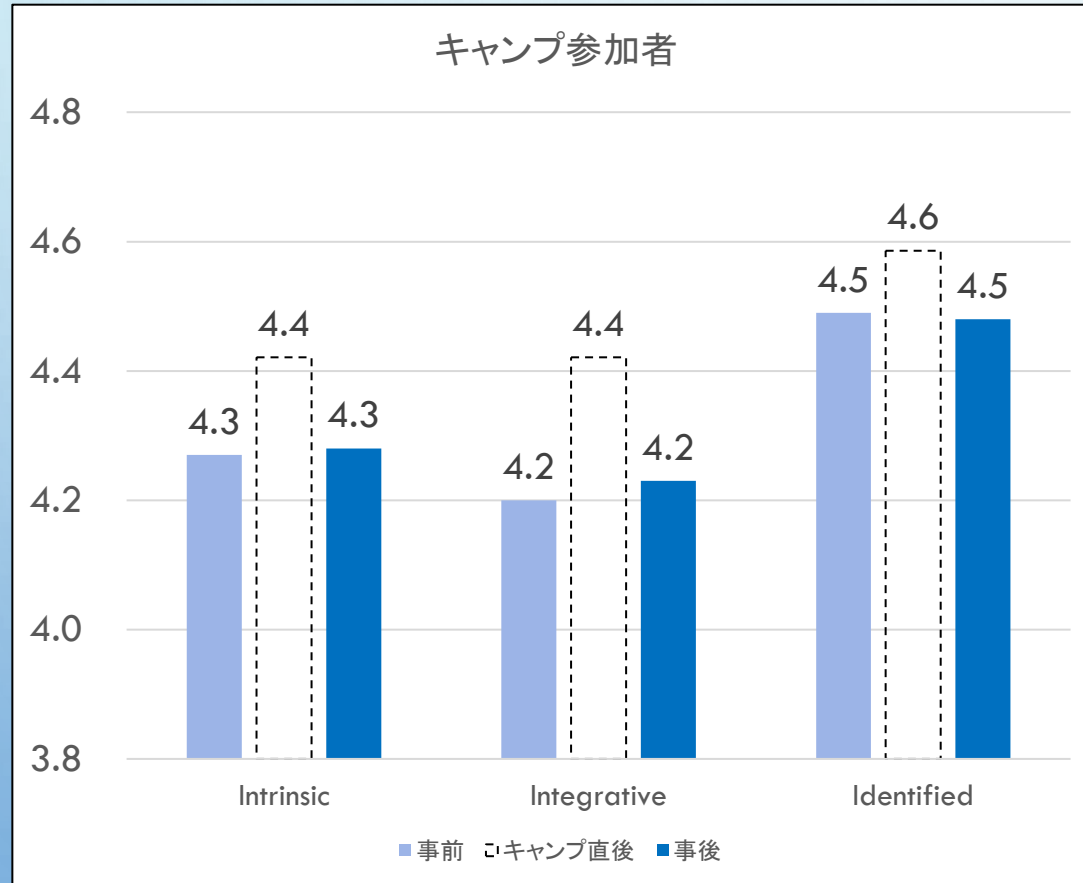
(竹内&水本2014)

モチベーション 質問紙 記述統計

		事前		キャンプ直後 (キャンプ参加者のみ)		事後	
		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
Intrinsic	キャンプ参加者	4.3	0.8	4.4	0.7	4.3	0.8
	キャンプ非参加者	4.2	0.8			4.0	0.9
Integrative	キャンプ参加者	4.2	0.9	4.4	0.7	4.2	0.8
	キャンプ非参加者	4.2	0.9			4.0	0.9
Identified	キャンプ参加者	4.5	0.7	4.6	0.7	4.5	0.8
	キャンプ非参加者	4.7	0.5			4.5	0.7

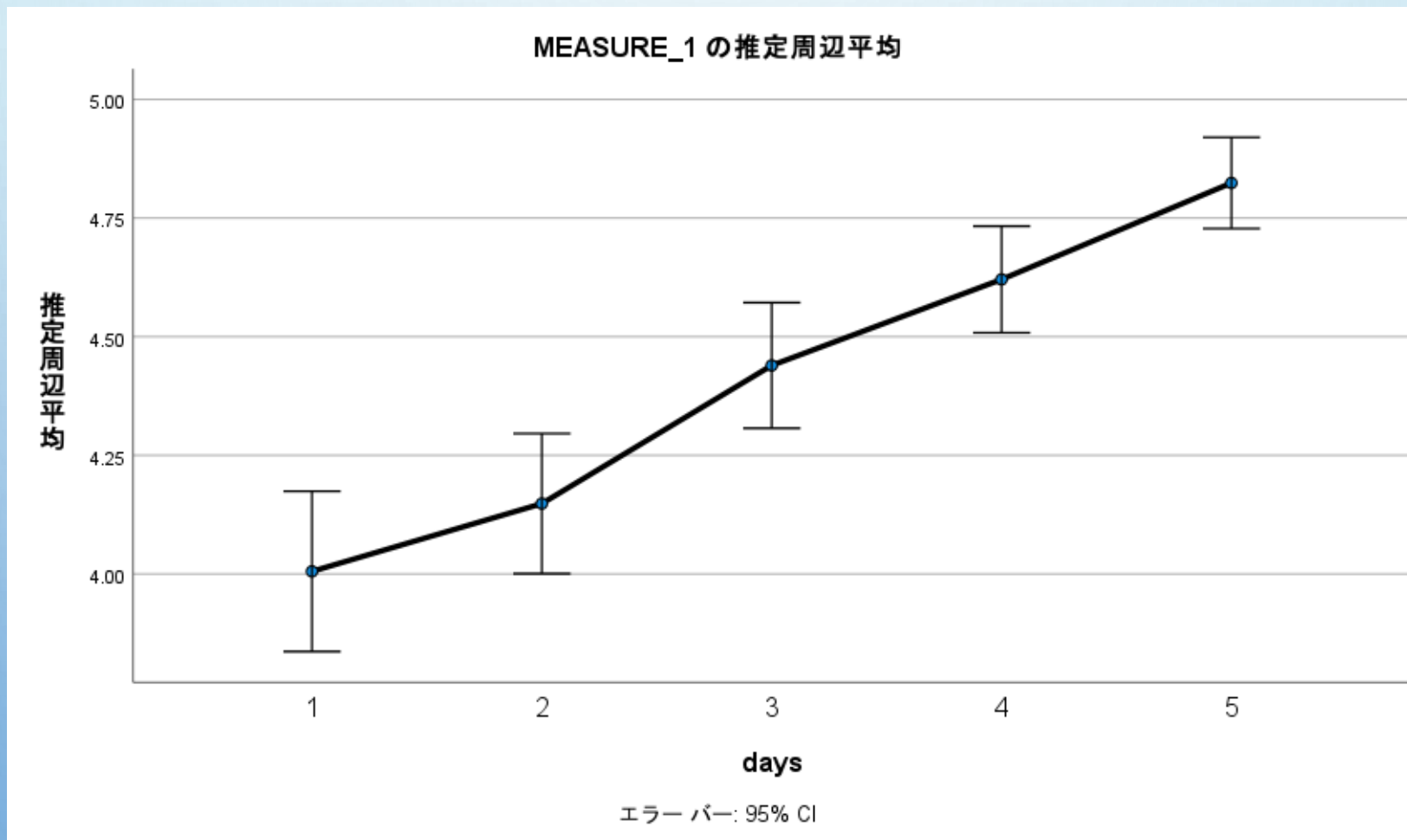
キャンプ参加者 $n=91$, キャンプ非参加者 $n=75$

モチベーション 質問紙 事前/事後

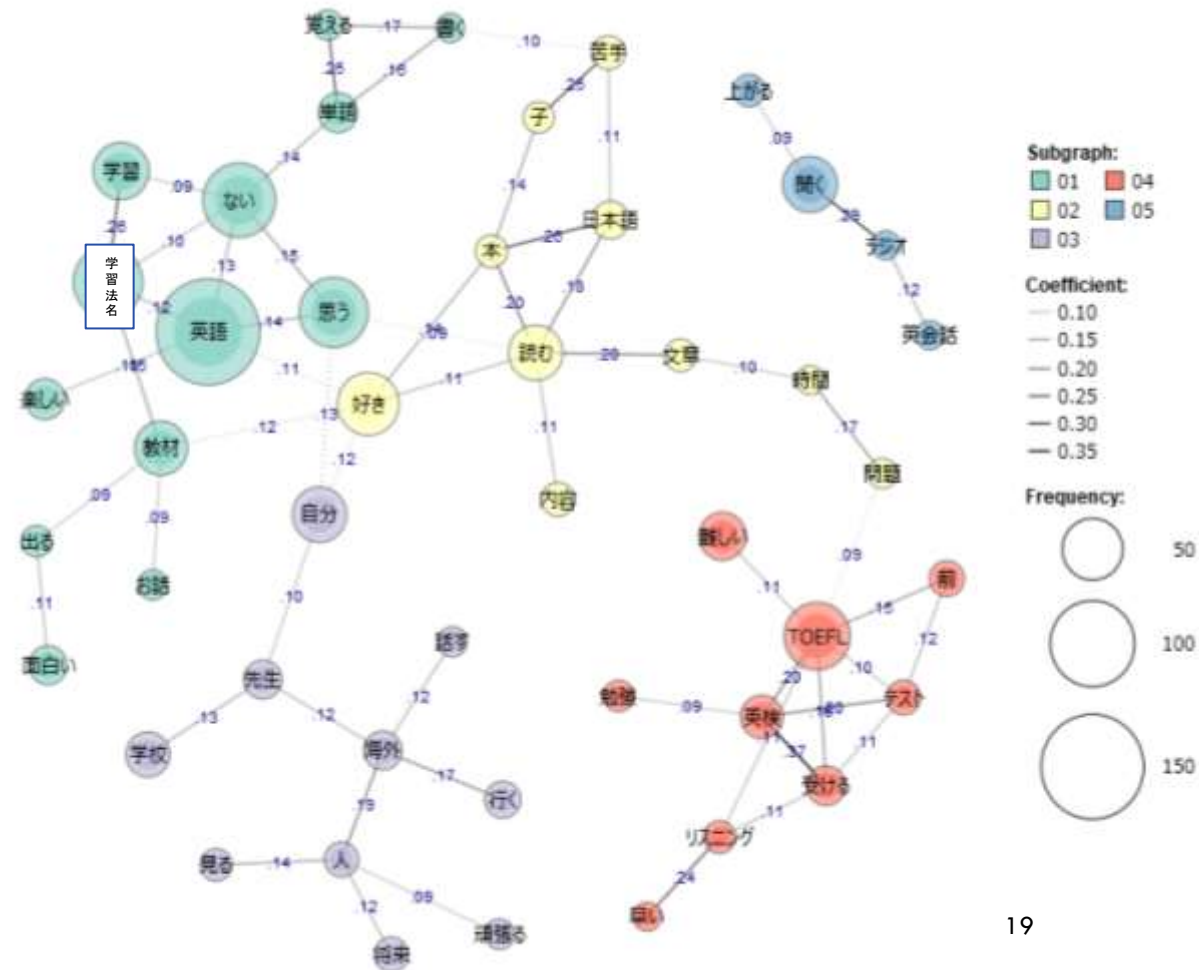


キャンプ参加者の5日間のコミュニケーション量

N=91



(左: キャンプ参加者 $N=13$ 、右: キャンプ非参加者 $N=11$)
上位60位一最小出現数10回以上



RQ① 「児童の英語学習に対するモチベーションはプラスに変化するのか」 結果

1)モチベーションの質問紙の分析から

事前事後で、**キャンプ参加者:同水準を維持** **非参加者:下降**

2)アンケート結果のKH Coderの分析から

	キャンプ参加者	非参加者
「英語」の共起語	キャンプ	学習法名
「楽しい」の共起語	キャンプ	英語
「好き」の共起語	お話・教材・英語	
「英語」の形成するネットワーク	キャンプ・楽しい・話す・思う・行く、友達、リーダー等 コミュニケーションに関する語	学習、学習法名、教材、単語、覚える、単語等、 学習に関する語

RQ②「その結果、数か月後に測定するリスニング・リーディングの英語運用能力にもプラスの影響を与えるのか？」結果

TOEFL Primary Step2 テストスコア 記述統計

リスニング			事前テスト		事後テスト		
	人数	満点	<i>M</i>	<i>SD</i>		<i>M</i>	<i>SD</i>
キャンプ参加者	91	115	105.87	A1 2.325		106.32	A2 2.992
キャンプ非参加者	75	115	107.03	A2 2.775		106.35	A2 3.047
リーディング			事前テスト		事後テスト		
	人数	満点	<i>M</i>	<i>SD</i>		<i>M</i>	<i>SD</i>
キャンプ参加者	91	115	106.08	A2 3.096		107.54	A2 2.83
キャンプ非参加者	75	115	107.12	2.046		108.37	A2 2.572

キャンプ参加者 $N=91$, キャンプ非参加者 $N=75$

被験者内対比の検定

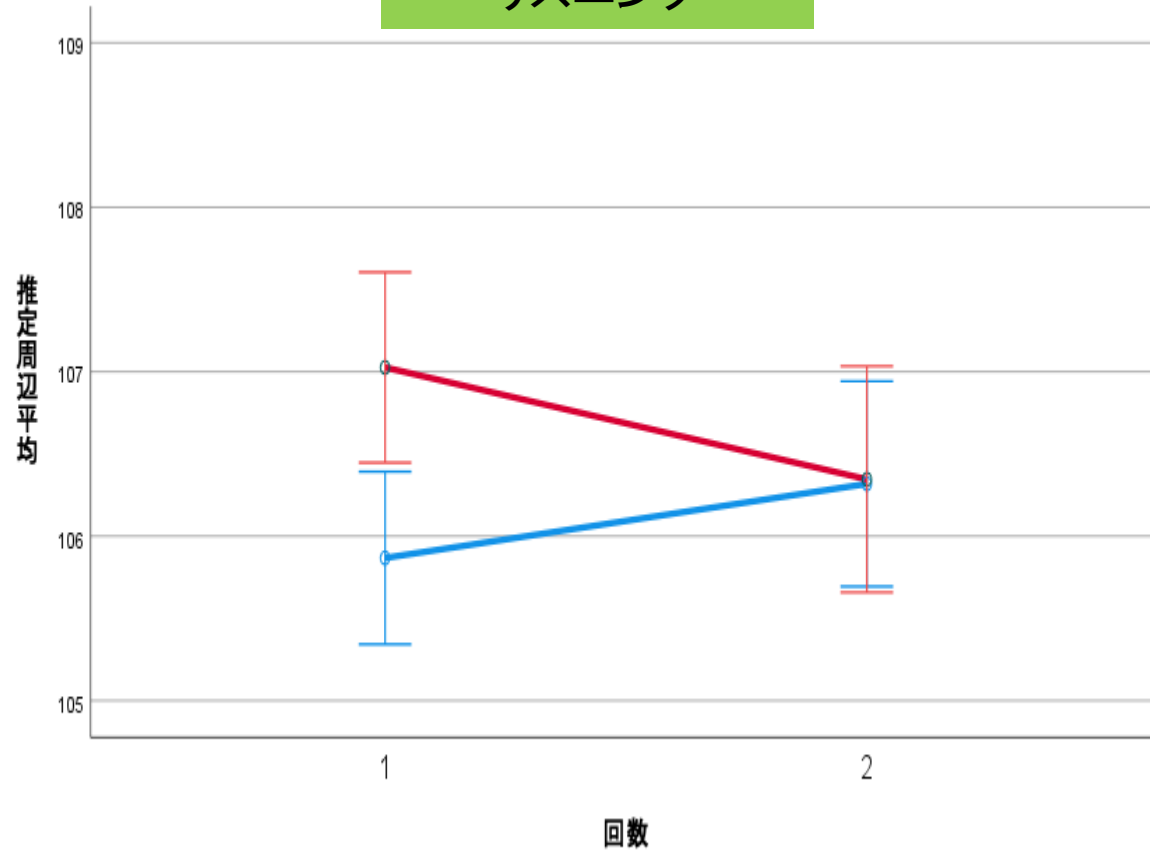
効果量				
		小	中	高
主効果	η^2	.01	.06	.14
交互作用	η^2	.01	.06	.14
(竹内 & 水本 2014)				

Source		<i>SS</i>	<i>df</i>	<i>MS</i>	<i>F</i>	<i>p</i>	ηp^2
事前事後	リスニング	1.08	1	1.08	0.31	.58	.00
	リーディング	151.52	1	151.52	38.21	.00	.19
事前事後 × キャンプ参加 者/非参加者	リスニング	26.28	1	26.28	7.50	.01	.04
	リーディング	0.89	1	0.89	0.23	.64	.00
誤差 (事前事後)	リスニング	574.42	164	3.50			
	リーディング	650.40	164	3.97			

TOEFL PRIMARY STEP2スコア

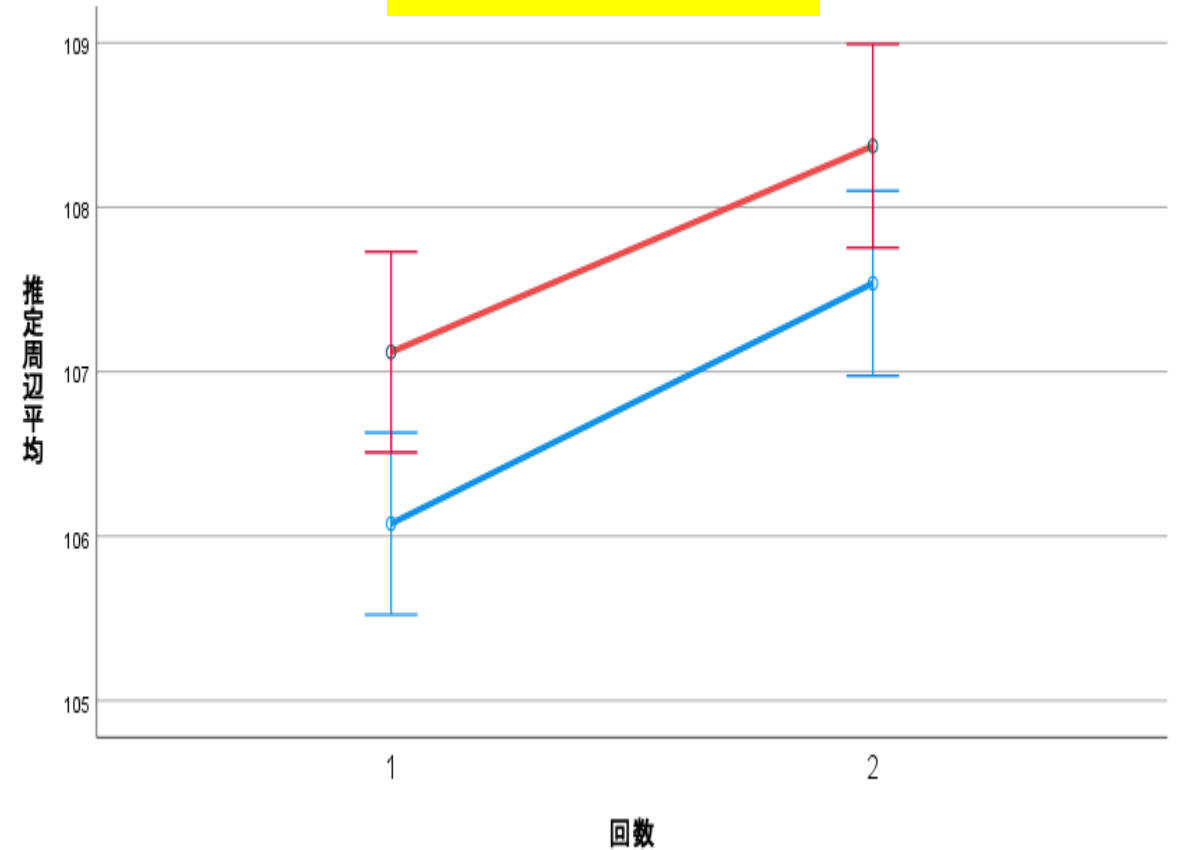
事前一事後（青＝キャンプ参加者、赤＝キャンプ非参加者）

リスニング



エラー パー: 95% CI

リーディング



エラー パー: 95% CI

RQ②「その結果、数か月後に測定するリスニング・リーディングの英語運用能力にもプラスの影響を与えるのか？」結果

2回のTOEFL Primary Step2テストスコアの
二元配置分散分析の結果から

キャンプ参加者は事前テスト時は英語運用能力において非参加者よりも下であったが、**キャンプ後にリスニング・リーディングともに上昇。**

5) 考察①

RQ①児童の英語学習に対するモチベーションはプラスに変化するのか？

- **キャンプ参加者**は、集中的に英語を使う場に参加したことを通して、キャンプ参加直後にはそれぞれの**モチベーションの上昇**がみられ、その後、事前と同水準のモチベーションを**4か月後まで維持**することとなった。
- **非参加者**は、モチベーション面に対して、大きな刺激を得る出来事がなかったからか、事後テスト時に**下降傾向を示した**。

インタビュー調査から(赤字筆者)

【キャンプ参加者】

- キャンプの時に言いたいことがなかなか言えなかったので、**話せるようになりたい**と思い、キャンプの後英語を話しているYOUTUBEを見るようになった。(小6 女子)
- キャンプの後、**英語のミュージックビデオを見て、字幕を見て意味を考える**ようになった(小6 男子)
- キャンプにいったからは、早く話す人がいても、**もっと喋りたいという気持ち**になった。(小6 女子)

【キャンプ非参加者】

- 教材が上がるにつれて**ストーリーがたくさん読めて楽しい**。(小5 女子)
- 英語は(音声機器)とか聞いていると**わかるようになっていくので、楽しくなる**と思う。(小6 女子)
- 英語を学ぶと、**将来いろいろできることが増える**ので、英語ができるようにしておいた方がよい。(小6 男子)

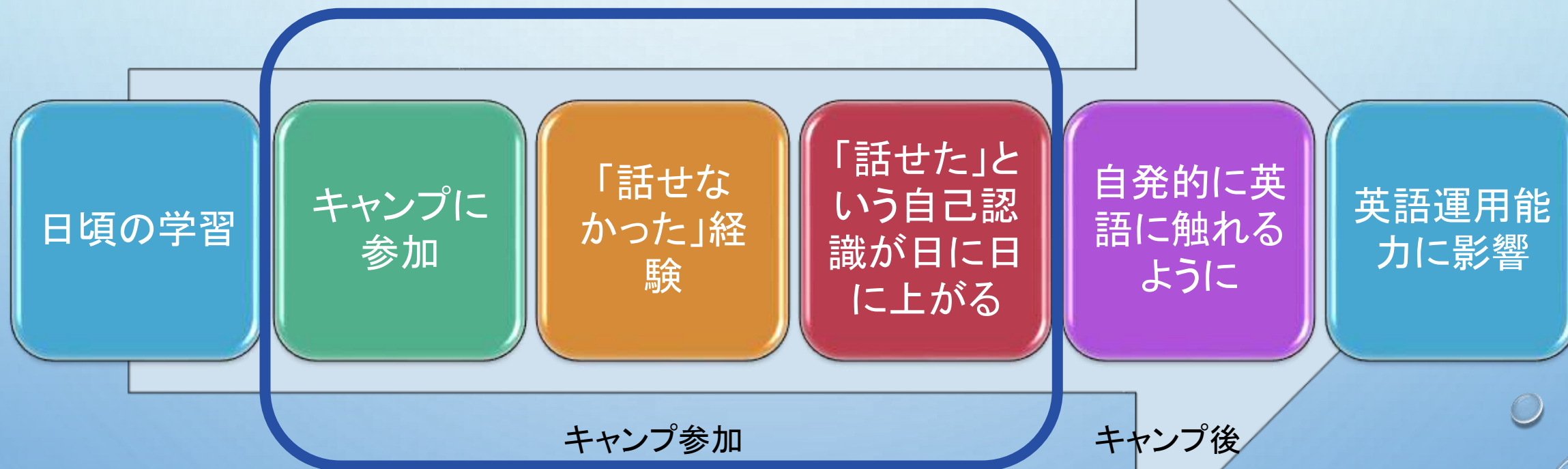
5) 考察②

RQ②その結果、数か月後に測定するリスニング・リーディングの英語運用能力にもプラスの影響を与えるのか？

- 英語キャンプというアウトプットの機会を得た児童は、英語学習へのモチベーションが高まり、結果として**アウトプットの機会から直接もたらされる産出能力ではない受容能力にもプラスの影響をおよぼし、4か月後の事後テストでは、キャンプ非参加者とくらべ、リスニングの英語能力が上昇。**
- アウトプットの機会を得ることが気づきを促し、言語習得を促すというIzumi & Bigelow (2000) 等の研究と同様の結果に。

6)まとめと今後の課題

▶ キャンプ参加者のモチベーションと英語運用能力の変化



教育への応用

集中的なアウトプット
の場



リアルなコ
ミュニケー
ション



少しの
悔しさ



今後の課題

- スピーキング能力の測定
- SDTの質問紙の6種のモチベーションの測定
- KH Coderの分析をBeforeでも行う
- 質問紙の検討
- 継続した調査によるモチベーションの長期の変化
- 「スコアが伸びなかった生徒」からのインタビューの可能性

参考文献

Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). Intrinsic motivation and self-determination in human behavior. New York, NY: Plenum.

Dörnyei, Z. & Ryan, S. (2015). The psychology of the language learner revisited. Routledge.

学研教育総合研究所（2015）小学生白書Web版

<https://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/201510/chapter8/10.html>

Gardner, R. C. (1985). *Social psychology and second language learning: The role of attitudes and motivation*. Arnold.

GC&Tホームページ（n.d.）

https://gc-t.jp/about_test/primary/

参考文献

- Hao, Y. (2018). Investigating Chinese High School Students' Motivation, Learning Engagement, and Language Achievement in the English Classroom (Doctoral dissertation, Queen's University (Canada)).
- Izumi, S. & Bigelow, M. (2000). Does output promote noticing and second language acquisition?. *TESOL Quarterly*, 34(2), (pp.239-278.)
- McEown, M. S., Noels, K. A., & Saumure, K. D. (2014). Students' self-determined and integrative orientations and teachers' motivational support in a Japanese as a foreign language context. *System*, 45, 227-241.
- Révész, A. (2011). Task complexity, focus on L2 constructions, and individual differences: A classroom - based study. *The Modern Language Journal*, 95, 162-181.

参考文献

- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2002). Overview of self-determination theory: An organismic dialectical perspective. *Handbook of self-determination research*, 2, 3-33.
- Swain, M. (1985). Communicative competence: Some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development. In S. Gass & C. Madden (Eds.), *Input in second language acquisition*, (pp.235-253) Rowley, MA: Newbury House.
- Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Cook & B. Seidlhofer (Eds.), *Principles and practice in applied linguistics: Studies in honour of H. G. Widdowson* 125-144. Oxford, UK: Oxford University Press.
- 竹内理, & 水本篤 (Eds.). (2012). *外国語教育研究ハンドブック: 研究手法のより良い理解のために*. Shōhakusha.

ご清聴ありがとうございました。

昭和女子大学大学院
大野 直子

11520005@ST.SWU.AC.JP

